

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 8月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4772300044
法人名	社会福祉法人幸仁会
事業所名	さわやかホーム 比謝川の里
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜336-2 (電話) 098-957-2345

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(H20年7月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日
ユニット数	(1) ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月8日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 86.9歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池原内科・名嘉病院・新垣病院・伊波歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

スーパーやファーストフード店が立ち並ぶ幹線道路から一步奥に入ったホーム周辺は、個人住宅やアパートが隣接する住宅地にあり、静かな環境の中にも地域との関わりを持ちながら生活できる環境に恵まれている。職員は入居者の意向に出来るだけ沿うようにプランを作成すると共に、プランと実施記録が連動するように書式を工夫し、個別ケアの実践に努めている。一般住宅を利用したホームは、部屋のつくりや家具、調度品も見慣れたものであり、入居者は家庭的な雰囲気の中、ホームの一員として役割を果たしながら暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果から、利用者のペースの尊重・環境整備・地域との交流を重点目標に取り組んだが、管理者・職員の配置移動が続き、体制がなかなか落ち着かず、取り組みが不十分な部分がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は赴任間もない時期ではあったが、職員と話し合い役割分担するなど互いに協力しながら取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	まだ開催されておらず、現在早期の開催実現にむけて運営者を含め協議中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は日頃のコミュニケーションを通して家族からの意見や不満等を聞き出しているが、事業所としての苦情対応マニュアル等が整備されていない為、それらに対応した明確な経過記録がない。意見箱も設置されているが活用されていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム設立当時から周辺スーパーへの買い物や散歩、行事案内などの取り組みの結果、6年目を迎えた今は地域に認知され、日常的に地域住民がボランティアや野菜の差し入れ等に立ち寄ったり、地域の祭りへの招待などの交流・連携が取れている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新しい管理者の赴任を契機に、改めて職員・入居者とともに話し合い、分かりやすい言葉で事業所独自の理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念の浸透を図るため、玄関や食堂の壁に理念を掲示したり、毎朝入居者とともに読み上げるなど取り組んでいる。	○	理念の掲示方法として、額に入れる等見やすくする工夫をすると、より意識が高まると共に、家族や外部からの訪問者にも分かり易くなる。可能であれば入居者に書いてもらうなどの取り組みも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立から6年目を迎え地域にも認知され、地域の祭りへの参加や、ホームへの地域住民のボランティア、野菜等の差し入れなど日常的な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は管理者が赴任して間もないため、職員と役割分担しながら話し合いまとめ上げた。前回の評価結果から、利用者のペース・環境整備・地域との交流に取り組んではいるが、職員の配置移動が多く、計画的に取り組めていない。	○	管理者・職員共に、評価の意義は理解し改善に向けても意欲的である。運営者は極力配置移動を控え、職員がじっくり取り組める環境を作って欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ実施されていないが、現在運営者とも開催に向けて協議中である。	○	運営推進会議設置は義務であるとともに、様々な課題解決への有効な場となるので、必ず開催するよう最大限の努力をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居者に関する相談等で町の関連機関を適宜訪問したり、行政職員がホームを訪ねて来るなど交流があり連携が取られている。</p>		<p>運営推進会議開催のために、行政ともさらに連携を強化して欲しい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の様子等は、家族には面会や受診時に報告し、記録も開示している。海外に暮らす家族とは定期的に電話で報告している。金銭については利用者毎の出納帳で管理しているが、家族との授受の確認印等がなく不十分である。金銭管理に関する規定等も無い。</p>	○	<p>金銭管理マニュアルを作成し、それに則った管理を実践して欲しい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、日頃のコミュニケーションの中から家族からの意見や不満等は聞いているが、それに対する明確な対応の記録はない。意見箱も設置されているが活用されていない。</p>	○	<p>運営推進会議が開催され、メンバーに家族代表が入る事で声が反映されることが期待できる。意見箱の効果が少ないければ定期的に家族アンケートを実施するなどの、より積極的な事業所の姿勢を示してほしい。また、対応マニュアルを作成し、意見がきちんと反映されるような仕組みを作って欲しい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体の事情もあり、管理者・職員の移動が多い。出来るだけ引き継ぎ期間を設けたり、移動や退職した後も職員がボランティア等で顔を見せるなどして、ダメージを防ぐように配慮している。</p>	○	<p>グループホームは本来、認知症ケアとして顔なじみの関係作りが基本であるので、運営者は特段の配慮をして欲しい。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体における研修や勉強会等には参加できるが、地域密着型サービスとしてのホーム独自の研修計画がない。また職員等の移動も多いため、段階的に育成する取り組みがなかなかできない。</p>	○	<p>運営者・管理者にはグループホーム独自の研修計画をたて、認知症ケアの専門職としての職員の意欲を満たす努力を期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会を通じて、情報交換・勉強会等に取り組んでいる。また、近隣のグループホームとの相互訪問も実践している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい、出来るだけ不安がないように説明している。また、入居後も家族の面会を促すよう、家族の事情に合わせ夜間の面会にも対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、方言や料理・行事等分からない事を教えてもらったり、夜勤帯などで互いの悩み事を相談する事もあり、同じホームで暮らす者同士として支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から要望を確認したり、入居後もコミュニケーションに努め、出来るだけ本人の意向を把握するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前から本人・家族からのヒアリングは勿論、入居後1~2週間は重点観察期間として情報収集し、ケアチェック表をもとにアセスメント、担当者会議でプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護日誌に介護計画を転記し、プランを意識した個別ケア、記録ができるよう工夫している。月一度のモニタリングで利用者の状況を把握し、体調の変化など見直しが必要な場合には家族と相談しながら、随時プランの見直しもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	やんばる出身の利用者の墓参りの対応したり、面会時間も家族の状況に出来るだけ合わせるようにしている。また、地域の店舗や施設に出かけたり、ホームの行事に地域住民を招待するなどの交流を通して、認知症の理解への普及・啓蒙に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医の受診は継続している。受診は基本的に家族の役割とし、受診時を利用し家族との情報交換をきちんとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の看取りケア指針が策定され、入居時に一応の意思確認がされている。過去家族の希望に沿い、一人の看取りを医師・看護師・職員のもと実践した。	○	前回の看取りを経験した職員がほとんど残っておらず、看護師も常勤ではない中で重度化や看取りに対応するには、職員や入居者、家族の不安が懸念される。改めて、看取りケア指針をもとに研修や勉強会を実施し、全員で方針を共有し、少しでも不安が軽減するように体制を整えて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は事務所や戸棚に保管され、また掲示物にも個人情報に記載されないように配慮されている。言葉かけも一人一人の生活歴等を意識した対応をし、利用者の尊厳に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の体調や気分等を尊重し、食事や入浴、余暇活動等も本人の意思を確認しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の中でも、切ることが得意な方、おやつ作りが得意な方等の個性を尊重して、入居者とともに準備・片付け等されている。食事中も職員が適切に声掛けや介助が行われ、入居者も調査員に対して気さくに話しかけるなど楽しい雰囲気伝わった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は毎日でき、本人の希望に合わせ声掛けしている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、様子をみながら何度か誘導することで対応されており、利用者も清潔がきちんと保持されていた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や希望に合わせ、家事を協力しながら実施したり、カルタやトランプ、民舞などを楽しみながら生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場はあまりの暑さに利用者は、買い物などに誘っても嫌がるため無理には外出せず、屋内での活動や、庭に出たりする程度に留めている。もう少し涼しくなったら買い物・散歩、ドライブ等を計画している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は基本的に夜間のみ施錠し、日中はかけていない。開閉は風鈴の音で感知したり、見守り等で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの近くに、職員や元職員、法人関係者が住んでおり、近隣の協力体制はできている。しかし民家を改修した二階建てのホームは、二階に多くの入居者の居室があるが、二階から外部への避難経路がない。また、ホーム独自の避難訓練が最近では実施されていない。	○	早急に防災訓練を計画し、実施して欲しい。その結果から見てきた課題に対する消防等からのアドバイスをもとに、ハード面の整備を含めた対策を運営者・職員全員で検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者は自分のコップで自由に水分摂取できる他、職員は時間を見て水分摂取を勧めている。食事の摂取状況や体重・献立等についても、看護師や法人の管理栄養士に相談するなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階の台所にテーブルと椅子、リビングにソファ、和室がありやや手狭な印象はあるが、庭もあり一般の家庭を訪問したようなアットホームな雰囲気がある。しかし、玄関や浴室、庭に出る際の段差等ハード面が気になる。	○	ホームができて6年目を迎え、入居者も年齢を重ねている。点検をして、出来るだけ早目の対策をたて、事故防止に努めて欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、職員は馴染みの環境づくりの重要性を家族等に説明しており、各居室は仏壇や家具が持ち込まれ、人形や置物、写真などが飾られ個性的である。他者の入室への不安の強い利用者に対しては、鍵をかけるなど本人の希望をくみいれている。		